

発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関するガイドライン

平成25年 8月 5日

長崎大学動物実験委員会

改正 令和 3年 3月18日

(目的)

- 1 このガイドラインは、国立大学法人長崎大学（以下「本学」とする）における人及び他の動物に危険をもたらすおそれのある発がん物質、環境汚染のおそれのあるヒ素や有害性重金属、内分泌攪乱物質等の危険物質（以下「発がん物質等危険物質」という。）を用いた動物実験において、実験従事者及び他者並びに目的外動物への危険防止並びに環境汚染防止のために必要な事項を定める。

(定義)

- 2 本ガイドラインにおいて、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号の定めるところによる。
 - (1) 発がん物質 国際がん研究機関（IARC）において、発がん性リスクがグループ 1（発がん性がある）、グループ 2 A（おそらく発がん性がある）、グループ 2 B（発がん性があるかもしれない）の化学物質。
 - (2) 有害性重金属 水銀、鉛、カドミウム等の体内に蓄積し、健康を害するもの。
 - (3) 内分泌攪乱物質 内分泌系に影響を及ぼすことにより、生体に障害や有害な影響を引き起こす外因性の化学物質

(申請)

- 3 発がん物質等危険物質を用いた動物実験等（以下「危険物質投与実験」という。）を実施しようとする者は、動物実験委員会が定める動物実験計画書に加えて別記様式 1「発がん物質等危険物質投与実験申請書」を動物実験委員会に提出しなければならない。

(審査)

- 4 動物実験委員会は、危険物質投与実験に関する審査を行うときは、別表「危険物質投与実験室の設備及び運用について」に基づき行うものとする。この場合において、動物実験委員会が必要と認めたときは、発がん物質等危険物質に関する専門家の意見を聴取することができる。

(危険物質投与実験の実験室)

- 5 危険物質投与実験は、動物実験委員会が別表「危険物質投与実験室の設備及び運用について」に定める基準をもとに適正と判断した実験室において行わなければならない。

(報告)

- 6 危険物質投与実験をする者は、当該実験室の管理に異常があると認めたときは、速やかに実験室責任者又は実験動物管理者及び動物実験委員会に報告しなければならない。

(実験の中止等)

- 7 不適切な危険物質投与実験が実施されている場合は、動物実験委員会の判断により当該実験の中止その他の措置を講ずることができる。

(雑則)

- 8 このガイドラインに定めるもののほか、危険物質投与実験に関し必要な事項は、動物実験委員会が別に定めることができる。

附 則

このガイドラインは、平成25年9月1日から施行する。

附 則 (令和 3 年 3 月 1 8 日)

このガイドラインは、令和3年5月1日から施行する。

別表 危険物質投与実験室の設備及び運用について

1. 発がん物質等危険物質を取扱う場合及び当該物質を投与された動物を処置する場合は、原則として安全キャビネット等の陰圧装置を使用する。
2. 発がん物質等危険物質を投与された実験動物の飼育は、当該物質を体外に排泄する危険性がある期間は陰圧の飼育装置で行い、原則としてディスポーザブルの飼育ケージ等を使用し、使用後は感染性廃棄物に準じて取扱う。
3. 発がん物質等危険物質に汚染された床敷等は全て回収し、感染性廃棄物に準じて取扱い、焼却等の処理を行う。
4. 当該実験室に出来する当該物質の排水・廃液は、長崎市の規制値以下でなければならない。規制値を超えることが予想される場合は、回収して適切に処理しなければならない。
5. 発がん物質等危険物質を投与した実験動物は、当該物質を体外に排出する危険性がある期間内は指定エリア外に持ち出すことを原則として禁止する。
6. 危険物質投与実験室および指定エリアにおける飼養管理は実験実施者が行う。
7. 危険物質投与実験室および指定エリア内の作業従事者は、予め取り扱う動物及び危険物質取扱について習熟していなければならない。

発がん物質等危険物質投与実験申請書

No.

年 月 日

長崎大学長 殿

「発がん物質等危険物質の投与実験」を申請いたします。

動物実験計画書受付番号	申請者の所属・職名	氏名	緊急連絡先
研究課題			
危険物質投与実験を申請する飼育室・実験室名			
実験従事者 (※ 学部学生及び大学院生については、職名は不要。)			
所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
投与物質について [名称・分子量・性状 (外界(温度・pH・光など)での安定性(文献等を引用し具体的に))]			
[人体に対する毒性・発がん性の IARC の評価 (該当する番号を○で囲む。4 の場合は説明)]			
1. グループ 1 (発がん性がある)			
2. グループ 2 A (おそらく発がん性がある)			
3. グループ 2 B (発がん性があるかもしれない)			
4. その他 ()			
実験について (動物実験計画書のうち、当該実験に関わるものを記載)			
[実験の目的]			
[実験に使用する動物]			
動物種:	系統:	性(雌雄):	
体重(週齢):			
同時使用動物数:	同時使用ケージ数:		
[飼育期間(予定)]		[投与期間(予定)]	
年 月 日 ~	年 月 日まで	年 月 日 ~	年 月 日まで
[投与方法・頻度・総投与量]			

記入欄が不足する場合は、別紙を添付する。

[投与した危険物質等の動物体内での代謝・排泄・蓄積など、飼育室・ケージ内での有害物質の蓄積の有無等]

本実験における安全性・安全対策について

[従事者等が、発がん物質等危険物質に暴露した場合の対処方法(具体的に)]

[飼育室及び実験室の汚染防止策および汚染された場合の対処方法(具体的に)]